

会場での質疑応答の記録

栄川中学校区

Q 1 :	再編の時期や期限は。
A 1 :	新しい学校、小中一体校を作りたいというのが再編。少子化で子どもの数が減って複式学級になるという時に小学校同士、中学校同士を一つにするというのが統廃合。再編と統廃合の2つの考え方で検討を進めている。再編を9中学校区同時に進めていくことは難しいため、緊急度、切迫度が高いところから入りていきたいと考えている。地域によっては早く進めてほしいというところもあるし、再編をやる必要があるのかというところもある。地域によって温度差がある。栄川中学校区は真ん中くらいか。再編については、9中学校区を順番に進めていく。来年から急に変わります、ということはない。やりますと決めてからだいたい5年くらいはかかる。すべての中学校区が終わるまでには40年くらいはかかるのではないか。順番をどうするのか、どの時期にどの中学校区に入るのかという計画を今検討しているところである。
Q 2 :	学校の建設場所についてはどう考えているのか。
A 2 :	現段階では白紙の状態であるが、第1候補としては現在の中学校の場所を考えている。小学校を作るということも考えられるが、中学校の方が敷地が広いこと、住民の皆さんとの理解が得られやすいのではないかと思っているが、決定しているわけではない。今後、具体的な検討を行う中で皆様の御意見を伺っていきたいと考えている。
Q 3 :	適正規模とはどのような規模なのか。少人数は悪いのか。
A 3 :	法令上の適正規模は、小学校が1学年2~3学級／学年、中学校は4~6学級／学年である。少人数がすべて悪いということではない。友人関係の濃さや、1年生から6年生までみんなが知り合いということで温かな集団を作るという点ではひじょうに良さがある。私も栄川中学校に勤務していたことがあるので、その良さはひじょうによく分かっている。先ほど、再編と学力観の繋がりがよく分からないといいう御意見を伺ったが、学校は将来を生きていくための力を身に付ける場所であり、我々が子どものころには知識を身に付けることが重視されてきたが、今後は社会が急激に変化していく中で、知識を身に付けるだけではなく、正解がないような難しい問題に対して、みんなで力を合わせてよりよい答えを導き出していく、そういう力が必要になってくる。少人数は、教え込んで覚えさせるという点ではメリットがあるが、仲間と力を合わせて課題を解決するためには、いろいろな人と知り合うということが子どもにとって非常に重要なことになる。1年生から6年生まで、いつも同じグループだと集団の中での役割が固定化されてしまう。クラス替えができると、子どもの人間関係を解除してあげることができる。クラス替えが出来るような、ある程度の人数の中でいろいろな価値観と出会えるような、そういう環境を作っていくことを考えている。

Q 4 :	学区の再編についてどう考えているのか。
A 4 :	学区については、現在の中学校区で決まりと考えているわけではない。小さい学校を残す考えはあるかということについては、小規模校よりも一定の規模の学校の方が子どもたちの教育のためには良いと教育委員会では考えているため、今のところ小規模校を残すという考えは持っていない。子どもが多いところから、少ないところへ通えば良いのではという御意見もいろいろなところで伺うが、対象となる地域の皆さんのお話を伺えば大体の場合は少ない方がこっちに来てという話になると思う。実際には聞いていないので、何らかの機会に聞いてみたいとは思っている。
Q 5 :	子どもの意見を聞いてほしいという意見についてはどう考えているのか。
A 5 :	どこの会場でもいただいている。実際に、学校を作る際に学校でどんなことをしたいのかという事を聞いてみたいと思っている。再編がどうか、一貫教育がどうかということについては、子どもの中に経験がないので答えは出せないのではないかと考えている。この部分については、保護者の皆さんの意見をしっかりと伺いたいと考えている。
Q 6 :	学校と地域のつながりを今後どうしていくのか。
A 6 :	掛川市では、学校・家庭・地域の協働による市民総ぐるみの教育を進めており、特に栄川中学校と地域の結びつきはかなり強い地域で、草鞋づくりやしめ縄づくりのようなこれまでの文化を伝える活動や、防災教育にも熱心に取り組んでいただいている。他の学区では、キャリア教育の一環として保護者や地域住民の皆さん方が仕事について子どもたちに教えているようなところもある。このような活動を今後も活発に取り組んでいただきたいと考えている。学校再編がこのような活動を阻害することがないように、地域の皆さんと目標を共有して新たな学園づくりを進めていきたいと考えている。
Q 7 :	複合施設についてどのような考え方を持っているのか。
A 7 :	地域で使うような施設を皆様の合意を得て、学校の中に入れながら共有化して使用していくたいと考えている。学校の施設を出来るだけ開放するような形で使っていきたいということも考えている。できるだけオープンな形で住民の皆さんも子どもたちも使い勝手がよい施設を目指して考えていきたい。
Q 8 :	発達障がいの支援についてはどう考えているのか。
A 8 :	学校の大小にかかわらず、保護者の方の同意がえられるのであれば、特別支援学級への入級、通級指導教室への通級等の対応は可能。小さい学校の方が子ども一人一人を手厚く見ることができるのである。この御意見もあるが、小規模校は教員の人数がすごく少ないので目が届かないということではなく、大規模校でも小規模校でもそんなには変わらない。特別支援学級は1学級最大8人と決まっており、学校の規模に関係はない。